

矯正局の洗礼!?

き、緊張する...

局内全係に挨拶
『矯正局インターンシップ生4名です。
3日間よろしくお願いします。』

矯正局長との座談会

ものすごく偉い方とこんなに間近でお話するなんて(汗)

初めての矯正局インターンシップ : 1日目

チーム分け

どのアイデアがいいか選んで

アイデアソン
「有為な人材確保のための採用広報」

チームで話し合ったアイデアについてプレゼンテーション



矯正支援官・関係者の皆様の視察・説明等への対応に随行しました。



法務省赤れんが棟

CAPIC
(刑務所作業製品)
ショップ



初めての矯正局インターンシップ : 2日目



「初めての矯正局インターンシップ」をツイートしよう！
文章や写真で何をどのように伝えるか話し合っ
て決め、局長決裁にチャレンジ！

実際のツイートはこちら



施設見学と体験実習

矯正研修所では、特別に、制服を着用し、実際に研修講義を受ける教室で説明を受けました。



矯正研修所



食堂も利用しました。研修員と同じ食事は、意外とおもしろそう？

初めての矯正局インターンシップ

: 3日目

東日本成人矯正医療センター，東日本少年矯正医療・教育センター



現場職員との座談会

東日本成人矯正医療センターと東日本少年矯正医療・教育センターを見学しました。

現場職員との座談会では、現場でのやりがいや苦労などを率直にうかがうことができました。

私は、法務教官を志望し、少年院でのインターンシップにも参加することにしていたのですが、より広く矯正行政について知るために、矯正局主催のインターンシップにも参加しました。初開催ということもあって、事前の情報・知識なしでの参加となり緊張しておりましたが、学ぶことが山ほどあった充実した3日間となりました。以下に、特に心に残った学びを3つ挙げます。

まず、『現場の生の声が聞けた』ことです。

特にインターン初日のアイデアソンでは、法務教官を始め矯正局で働く様々な職員の方と交じって採用広報案を考えていく中で、同局内でも係によって異なる業務のお話や、矯正の仕事の長所・短所、実務の小話など、とても気さくにお話して下さったことが印象的でした。現場の雰囲気をつかぎ知ることができ、ここで働けたら良いなと素直に感じました。

次に、『矯正という職の再認識』です。

矯正局長や東日本少年矯正医療・教育センターの方との座談会では、少年に信用される大人の手本としての姿勢や信念を持って少年に接することの重要性など、矯正の仕事がもつ魅力や責任を再認識し、自分がどうしてこの職業を目指しているのかを改めて考え直す機会となりました。

最後に、『矯正はチームワークである』ことです。

今回のインターンで出会った職員の方々には皆さん、少年一人一人に適切な処遇をするためにチームワークを大切にしていってほしい様子でした。私は、矯正の仕事では一対一で少年に向き合うものだと思っており、人に頼ることが苦手な性格だったことも相まって、目から鱗が落ちるような気持ちになりました。

上記以外にも学ぶことが多く、また堅苦しいイメージを良い意味で裏切る矯正局インターンは単純に楽しかったので、これからもより多くのインターン生に体験していただきたいと思います。

インターンシップに参加して、矯正局は局外との関わりが強いことを感じました。各刑事施設との連携はもちろんですが、矯正支援官、民間の協力者、各刑事施設のある地域の人との繋がりも想像以上にあり、受刑者の円滑な社会復帰のためには、こうした周囲の結び付きが不可欠であることを学びました。

また、普段から人と向き合う機会の多い仕事だからこそ、職員同士においても自然とコミュニケーションがとられ、それが局内の温かい雰囲気につながっているのだと思いました。

初日のアイディアソンでは、緊張で固まっていた四人を皆さんが温かく迎えてくださり、法務教官や刑務官として働くことの魅力や広報手段について一緒に考えていく中で、これまで知らなかった実務のお話をうかがい、より法務教官、刑務官として働きたいと思いました。

二日目の矯正支援官対応、広報関係業務では、外部の方に矯正局についてわかりやすく伝えることの大切さと大変さを学びました。矯正支援官対応の際に、職員の方が説明をされているのを見ていたときは、なんとなく自分にもできるかもしれないという感覚がありました。しかし、実際にTwitterで伝える側に立ったとき、限られた字数で最大限に伝えたいことを伝えることの難しさを痛感しました。そして、時間の制約がある中で、矯正局について場の雰囲気に合わせて簡潔にお話していた職員の方の凄さを感じました。

三日目は、採用後に実際に研修を受ける施設を制服を着て見学し、研修期間の生活を体験することができて嬉しかったです。また、東日本成人矯正医療センター、少年矯正医療・教育センターの見学では、現場の雰囲気を肌で感じ、採用後についてより明確に想像できるようになりました。

さらに、今回のインターンシップでは、矯正局で働くこと以前に、社会人として大切なことをたくさん学びました。視野を広く持つこと、自分の考えを相手に伝えるように発信することから始まり、所作や言葉遣いにいたるまで、今自分が身に付けなければならない能力に気付くことができました。

三日間を通して関わった全ての職員の方が、誇りを持って働いているということを感じ、私も矯正局で働きたいと強く思いました。三日間大変お世話になりました。ありがとうございました。

今回、インターンシップに参加させていただいたことで、インターネットなどでは知ることのできないような情報がたくさんあり、非常に心がおどりました。そして、将来法務教官として勤めるにあたって重要な志と、自分自身の克服しなければならない課題を理解することができました。

施設見学では、実際に職員の方々が働いている雰囲気や少年たちの生活環境などを実感できたというのは、非常に貴重な体験でした。そして、職員の方々と直接お話をさせていただいたことで、“自分なりの接し方を見つけながら、チームで協力し合う”といった少年たちとの関わり方を知ることができ、より一層法務教官への志望度が高まりました。しかし、日数を重ねるごとに自分と周囲との差を実感し、克服しなければならない課題も明らかになりました。

期間中は、プログラム内容についていくことで必死でしたが、それ以上に得るものも多く、“お堅い”というイメージから“フレンドリー”といった印象の違いも感じることもできたので、とても充実したインターンシップであったと感じています。

参加者の声 ～初めての矯正局インターンシップ～

